

試験問題の作成に関する手引き（平成 26 年 11 月）に記載された生薬一覧(五十音順)

インヨウカク(淫羊藿)：【強精】メギ科のエピメディウム・ブレビコルヌム、ホザキイカリソウ、キバナイカリソウ、イカリソウ、トキワイカリソウ等の地上部を基原とする生薬で、大脳を興奮させ、刺激性を敏感にし、末梢血管を拡張して血流を亢進させ、特に、陰茎海綿体を充満させる作用があるといわれている。

ウイキョウ(茴香)：【健胃】セリ科のウイキョウの果実を基原とする生薬で、健胃整腸、鎮痛、去痰に用いられる。

ウワウルシ：【抗菌】ツツジ科のクマコケモモの葉を基原とする生薬で、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示す。15 歳以上に適用。

オウギ(黄耆)：【強壯】マメ科のキバナオウギ又はナイモウオウギ等の根を基原とする生薬。

オウゴン(黄芩)：【抗炎症】シソ科のコガネバナの根の周皮を除いた根を基原とする生薬。

オウヒ(桜皮)：【去痰】バラ科のヤマザクラ又はその他近縁植物の、通例、周皮を除いた樹皮を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。

オンジ(遠志)：【去痰】ヒメハギ科のイトヒメハギの根を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。

カイカ(槐花)：【止血】マメ科のエンジュの花および蕾を基原とする生薬で、止血効果を期待して用いられる。

カイカク(槐角)：【止血】マメ科のエンジュの果実を用いたエンジュの成熟果実を基原とする生薬で、止血効果を期待して用いられる。

カゴソウ(夏枯草)：【利尿】シソ科のウツボグサの花穂を基原とする生薬。利尿成分

カシュウ(何首烏)：【頭皮・強壯】タデ科のツルドクダミの塊根を基原とする生薬で、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。滋養強壯作用もある。

キキョウ(桔梗)：【去痰】キキョウ科のキキョウの根を基原とする生薬で、痰又は痰を伴う咳に用いられる。

キササゲ：【利尿】ノウゼンカズラ科のキササゲ等の果実を基原とする生薬。利尿成分

キョウニン(杏仁)：【鎮咳】バラ科のアンズの子アズ等の種子を基原とする生薬で、咳嗽中枢を鎮静させる。

ケイガイ(荊芥)：【解熱鎮痛】シソ科のケイガイの花穂を基原とする生薬で、発汗、解熱、鎮痛等の作用を有するとされ、鼻閉への効果を期待して用いられる。

コウカ(紅花)：【血行促進】キク科の植物ベニバナの管状花をそのまままたは黄色色素の大部分を除き、圧搾して板状としたもの除いたもので、ときに圧縮して板状としたものを基原とする生薬で、末梢の血行を促して鬱血を除く作用がある。

ゴオウ(牛黄):【強心】ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を用いた基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める作用がある。

ゴミシ(五味子):【鎮咳・強壮】マツブサ科のチョウセンゴミシの果実を基原とする生薬で、鎮咳作用、強壮作用を期待して用いられる。

サイシン(細辛):【鎮静】ウマノスズクサ科のウスバサイシン又はケイリンサイシンの根及び根茎を基原とする生薬で、鎮痛、鎮咳、利尿等の作用を有するとされ、鼻閉への効果を期待して用いられる。

サンキライ(山帰来):【利尿】ユリ科のケナシサルトリイバラの塊茎を基原とする生薬。利尿成分

サンシュユ(山茱萸):【強壮】ミズキ科のサンシュユの偽果の果肉を基原とする生薬。

サンヤク(山薬):【強壮】ヤマノイモ科のヤマノイモ又はナガイモの周皮を除いた根茎（担根体）を基原とする生薬。

シコン(紫根):【抗炎症】ムラサキ科に属するムラサキの根を基原とする生薬で、新陳代謝促進、殺菌、抗炎症等の作用を期待して用いられる。

ジャコウ(麝香):【強心】シカ科のジャコウジカまたはその近縁動物の雄のジャコウ腺分泌物を乾燥したもので、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる作用がある。

シャゼンソウ(車前草):【去痰】オオバコの花期の全草を基原とする生薬で、気道粘液の分泌を促す。

シンイ(辛夷):【鎮静】モクレン科のタムシバ、コブシ、ボウシュンカ、マグノリア・スプレングリ又はハクモクレン等の蕾を基原とする生薬で、鎮静、鎮痛の作用を期待して用いられる。

シンジュ(真珠):【鎮静】ウグイスガイ科のアコヤガイ、シンジュガイ又はクロチョウガイ等の外套膜組成中に病的に形成された顆粒状物質を基原とする生薬で、鎮静作用等を期待して用いられることがある。

セイヨウトチノミ:【血行促進】トチノキ科のセイヨウトチノキ（別名マロニエ）の種子を用いた基原とする生薬で、血行促進、抗炎症等の作用を期待して用いられる。

セネガ:【去痰】ヒメハギ科のセネガ又はヒロハセネガの根を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。

センソ(蟾酥):【強心】ヒキガエル科のシナヒキガエル等のまたはヘリグロヒキガエルの毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、微量で強い強心作用を示します。皮膚や粘膜に触れると局所麻酔作用を示し、センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用すること。

ソウハクヒ(桑白皮):【利尿】クワ科のマグワの根皮を基原とする生薬。利尿成分

タイソウ(大棗)：【強壯】クロウメモドキ科のナツメの果実を基原とする生薬。

チクセツニンジン(竹節人参)：【血行促進】ウコギ科のトチバニンジンの根茎を、通例、湯通ししたものを基原とする生薬で、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。

チョウジ(丁子)：【健胃】フトモモ科のチョウジの蕾を基原とする生薬で、芳香性健胃、食欲増進などに用いられる

ナンテンジツ(南天実)：【鎮咳】メギ科のシロミナンテン（シロナンテン）又はナンテンの果実を基原とする生薬で、知覚神経・末梢運動神経に作用して咳止めに効果があるとされる。

ニンジン(人参)：【新陳代謝】ウコギ科のオタネニンジンの細根を除いた根又はこれを軽く湯通ししたものを基原とする生薬で、オタネニンジンの根を蒸したものを基原とする生薬をコウジンということもある。別名を高麗人参、朝鮮人参とも呼ばれ、神経系の興奮や副腎皮質の機能亢進等の作用により、外界からのストレス刺激に対する抵抗力や新陳代謝を高める。

ハッカ(薄荷)：【清涼】シソ科のハッカの地上部を基原とする生薬。

ハンピ(反鼻)：【強精】クサリヘビ科のmamushiの内臓を基原とする生薬は、強壯、血行促進、強精（性機能の亢進）等の作用を期待して用いられる。

ヒノキチオール：【抗菌】ヒノキ科のタイワンヒノキ、ヒバ等から得られた精油成分で、抗菌、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。

ブクリョウ(茯苓)：【利尿】サルノコシカケ科のmatsuhodoの菌核。利尿成分

モクツウ(木通)：【利尿】アケビ科のアケビ又はミツバアケビの蔓性の茎。利尿成分

ユーカリ油：【抗菌】フトモモ科のユーカリノキ又はその近縁植物の葉を基原とする生薬から得られた精油成分で、抗菌作用がある。

ヨクイニン(ハトムギ)：【肌荒れ】イネ科のハトムギの種皮を除いた種子を基原とする生薬で、肌荒れやイボに用いられる。ビタミンB2 主薬製剤やビタミンB6 主薬製剤、瀉下薬等の補助成分として配合されている場合もある。

リュウノウ(竜腦)：【気つけ】フタバガキ科の常緑高木、リュウノウジュの樹脂を加工したもの。中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。リュウノウ中に存在する主要な物質として、ボルネオールが配合されている場合もある。

ルチン：【血管強化】柑橘フラボノイド配糖体の一種、ビタミンに類似した物質で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。

ロクジョウ(鹿茸)：【強心】シカ科のシベリアジカ、マンシュウアカジカ等の雄の幼角を用いたマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、もしくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用のほか、強壯、血行促進等の作用がある。小児の疳、滋養強壯薬にも配合される場合がある。